

ダイアログの場のつくり方 使えるワーク その1

ダイアログの場のつくり方シリーズ5回目の今回は、僕がダイアログの場をつくる時に活用するワークを紹介します。

ワークショップというスタイルの場をつくるにあたって、その名の通りワークはとても重要な存在です。ワークを行うことで感じたことを言葉にし、それを共有し合うことでまた学びを得る。なので、同じテーマでも人によって受けとるものが変わってきます。

ダイアログをするこもひとつのワークであり、僕をつくる場のほとんどはダイアログをメインのワークにしたものが多く、色んなワークを組み込んだ場をあまりつくることがありません。その中でよく僕が活用しているワークのやり方とポイントを踏まえながら、今回の投稿を行っていきます。

仲間とダイアログしながら学び合う、そんな環境をつくりたい人が1歩を踏み出せる、この資料がそんなきっかけになれば嬉しいです。

まずは、アイスブレイクに使っているワークを紹介します。アイスブレイクとは緊張と不安が入り交じり固まった場を氷に見立て、それを壊して場を和らげ、目的に向かって場が進みやすくするものです。

ちなみに、「まずはアイスブレイクしましょう。」という表現をいきなりすると逆に、「何それ？」と参加者が固まっていくことがあるので、僕はダイアログの場をつくっている最中には参加者の頭に「？」が浮かぶ言葉は、意図がない限り使わないようにしています。

紙を使った自己紹介

これが一番使っているワークですが、A4用紙をマジックなどで4分割し、今日呼ばれたい名前、住んでいる場所、最後に食べたもの、好きな食べ物、苦手な食べ物、自由にひと言、など、4つのテーマを選んで書き込んでもらいます。それを順番に読み上げれば自己紹介が出来るので、最初に声を出すハードルが低く一番最初に行うワークとしては導入しやすいです。

それに僕は、好きな言葉、を必ずテーマに入れていきます。その理由は、その人と人となりや短時間で話してもらいよりは、今好きな言葉を教えてもらった方がわかりやすいからです。初めて逢った状態で、その人がどういうことを大切にしているのか、それを受けとるのにとっても良いです。

フラフープダウン

これにはフラフープが必要なのですが、数人で片腕を伸ばし人差し指を伸ばした状態でフラフープを囲みます。手のひらをしたにした状態、つまり爪がある側の方にフラフープをのせ、スタートの合図とともにグループで協力してフラフープを床に下ろしていきます。

人数が多ければ多いほど難しくなるのですが、2グループ以上で競争できるのが良いですね。あせってバランス悪くフラフープを下げようとすると、逆にフラフープは上に上がっていきます。なので、その過程の中でそのグループの指示を出す人

や場を和らげる人など、役割が自然と生まれるのでそれを知ることができます。今は組み立て式のフラフープも販売されているので持ち込みやすくなりました。

YOU and ME

このワークの正式名は知らないのですが、仲間うちで使っているうちにこの名前になりました。立った状態で、グループもしくは2グループで円になり、「私」といって自分の胸の前に両手を持ってきて、「あなた」といってその中の誰かに向けて、手のひらを上にして何かを届けるように両手を伸ばします。それを順番などなく渡したい相手に渡し続け、全員が慣れてくるまで続けます。

全員が慣れてきたら、今度はその日の呼ばれたい名前で同じことを行います。名札があつて胸に名前が書いてある状態がやりやすいですが、なくても名前を覚えていない人には順番をふらないはずなので問題はありません。このワークを通じて存在を承認し合いながら名前を覚えていくことを行います。

エアキャッチボール

同じく立った状態で、グループもしくは2グループで円になります。YOU and MEと同じ流れなのですが、投げるものはボールなどに見立てたもので、実際にはそこには存在しません。それを投げ合うかのようにキャッチボールを行っていきます。「このボールはどんなモノにでもカタチを変えることができます。」と最初の説明の段階で言うおいて、あとは自由にカタチを変えながらボールを投げ合ってもらいます。

大きさを変えたり、重さを変えたり、槍や弓になったりと、その場の人たちの個性でいろんなモノが登場することになります。それを観察することはその場の個

性を観察することにもつながりますので、ムードメーカーを見つけるのに良いワークです。

グループづくり

全員に立ってもらって自由に歩ける状態をつくります。そして「言葉を使っ手はいけない」というルールを伝えてテーマに沿ってグループづくりをしてもらいます。手を叩いた回数と同じ人数でグループをつくり、出来たら座ってもらいます。最後のグループや余った人たちには何かテーマを決めてみんなの前で話してもらうなどの、簡単な罰ゲームを行ってもらいます。

他には誕生月が同じ人、星座が同じ人などテーマにして制限時間を設けて言葉を使わずにグループになってもらい、時間がきたら確認するなどを繰り返していきます。ここでも中心となる人物や声をかけられるのを待っている人など、その場の人たちの個性を観察することができます。

他己紹介

コミュニケーションや自分を知ることが目的とした場などで活用するのですが、2人一組でまずはAさんBさんなど役割を決めます。まずは2分程度Aさんの話をBさんが聴いて、今度はBさんの話をAさんが聴いて。そしてグループでそれぞれのパートナーの紹介を行います。

その中には自分では表現できなかった視点なども混ざっているし、自分とは違う感性が存在するので、良いとか悪いとかではなく違いから何かを見出すことが出来ます。

アイスブレイクは場の最初の段階で使うことが多いので、参加者の緊張をほぐしながらも、場を促す人はしっかりと観察をしてその後の場づくりに活かしてください。例えば、イジリやすいのは誰か、逆にもっと様子を見た方がいいのは誰か、など、アイスブレイクの最中に色々な情報が飛び交っているので、それらを必要な分だけ受けとって、場を促していくための要素として活用してみてください。

今回は「使えるワーク その1」のお話をしました。次回は続きとして「使えるワーク その2」のお話をします。

今回の内容に関して「こんな風に活用してみた」とか、「もっと具体的なことが聴きたい」とか、もしくは今回の内容で感じたことがあれば、「みんなのダイアログ」に投稿してください。

そこで学び合いながらダイアログしていきましょう。

みんなのダイアログ

<http://cobaken.net/webdialog/index.php?qa>